

バーコード

ウォーキング、ジョギング、ランニングの参加者を記録するために、当日は印刷したバーコードを持参していただき、フィニッシュ後にそれをスキャンします。グローバル統一のルールは「バーコードなし、タイムなし、例外なし」で、すべてのイベントにおいてこれを遵守することが重要です。

parkrunに登録すると、バーコードを印刷する画面が出てきます。それには参加記録を受け取るためにはバーコードを提示しなければならないことが記載されています。

印刷されたバーコードを持参することは、2008年以来、parkrunの基本となっており、イベント終了後間もなく参加者に負担をかけることなく正確な参加記録をお届けする事に役立っています。

「スキャンできる」バーコードを求める他の理由は何ですか？

- バーコードには参加者の名前が記載されているので、これが人と人とのつながりやコミュニティの構築に役立っています。
- 印刷されたバーコードには、緊急連絡先の(ICE)の電話番号が記載されています。参加者の名前と緊急連絡先に迅速にアクセスできるようにすることで、必要に応じてこの情報を使用し参加者の安全を確保することができます。



印刷したバーコードを持って来たのに、スキャンができない場合は？

スキャンできないバーコードをボランティアが書きとめ、マニュアルでデータを入力することは全く問題ありません。バーコードが泥だらけだったり、汗で濡れていたり、擦れていたり、スキャナーが読み取れない場合もあります。参加者がバーコードを持っていれば、ボランティアはその参加者の名前を追加することができますが、その参加者には次回のイベントのためにバーコードの再印刷をお願いし、場合によってはparkrunのキータグ、カード、リストバンドをお勧めしてください。